

今回は、8月7日に行われました口腔顔面痛診断実習セミナーについて日本大学の野間 昇先生に、報告させていただきます。

## 口腔顔面痛診断実習セミナー参加報告

日本大学歯学部 口腔診断学講座 野間 昇

口腔顔面痛診断実習セミナーは、平成28年8月7日(日)に慶應義塾大学病院2号館11階大会議室にて開催された。夏真っ只中のセミナーであったが、大勢の参加者が参集した。冒頭、企画運営委員長の村岡渡先生より当セミナーの趣旨について説明があり、開始された。



午前の部 会場風景

午前は、A～E班の5グループに分かれプレテストから始まり、まず受講者の理解度をチェックした。プレテストの問題は臨床診断推論、筋・筋膜性疼痛、DC/TMDに準じた筋触診法、神経障害性疼痛、脳神経診査法に関する問題について出題された。慶應義塾大学医学部 歯科口腔外科学の和嶋浩一先生から臨床診断推論のための進め方について講義された後、村岡先生より1症例目の臨床診断推論実習症例として歯痛および顔面痛の症例が提示された。臨床診断推論実習では構造化問診から鑑別診断を挙げ、鑑別診断の確認作業、それに対する検査、問診を行い、鑑別診断の確かさの見直し、最終診断という流れで行われた。症例の概要が示された後、各グループに2人のインストラクターが配置され、グループ間で活発なディスカッションが行われた。臨床推論を進めるうえで鑑別診断に必要な検査を受講者が求め、インストラクターがその結果を提示するという形式ですべてのグループが最終診断まで行った。午前の実習に先立ち、日本歯科大学附属病院総合診療科/顎関節症診療センターの原 節宏先生が筋・筋膜性疼痛診査法について解説され、筋・筋膜痛のメカニズムから歯原性歯痛との鑑別に有効な診察・検査法、筋触診法について説明された。実習ではDC/TMDに準じた筋触診法をプレッシャーアルゴメーターなどの圧痛検査器具を使用し、受講者が相互に咬筋・側頭筋の筋触診を行った。実際にインストラクターから筋触診による関連痛を誘発された受講生も何人か見受けられ、「関連痛の誘発の体験は初めて」という声もあり、驚きつつも満足そうな顔をしていた。

午後は村岡先生から、2症例目の臨床診断推論実習症例として歯・歯肉・頬部の疼痛を主訴とした症例が提示された。午前同様、臨床診断推論実習では構造化問診から鑑別診断を挙げ、最終診断という流れで行われた。症例についての最終診断に加え、薬物療法、理学療法などの治療計画についても各グループに検討していただいた。臨床診断推論実習の解説では、村岡先生から実際の臨床現場で行う臨床推論手順で分かりやすく説明していただき、痛みの再現性の重要性、診察・診断の必要性につ



咀嚼筋触診の相互実習

いても解説された。引き続き、日本大学松戸歯学部 有床義歯補綴学講座の大久保昌和先生から「12 脳神経障害が生じたらどうなるか」について解説された後、あんど歯科口腔外科の安藤彰啓先生から「すぐできる 12 脳神経の診査の診査法の実際」というタイトルで実際に受講者に対して、デモンstrーションが行われた。大久



**脳神経診査のデモンstrーション**

保先生、安藤先生の両先生から口腔顔面痛を主訴に歯科を受診する患者には脳腫瘍などの二次性疾患が隠れていることがあり、歯科医師は口腔内の神経症状のみならず、眼症状、味覚変化、顔面の動きの変化、聴覚の変化なども医療面接で聴取し、脳神経スクリーニングをマスターする必要があると強調された。

その後、野間から神経障害性疼痛診査法について、ビデオで綿棒による触刺激、爪楊枝による痛覚刺激、スパチュラによる温冷覚刺激による定性検査の手順について説明した後、診査法の実習に移った。この診査法は特別な刺激装置は必要なく、実際の臨床現場で「明日からできる簡易的神経障害性疼痛診査法」として使える有効な診査法であると確信している。総合ディス

カッション終了後、ポストテストを行い、本セミナー後の受講者の理解度を再チェックした。多くの受講者がプレテストでできなかった問題もポストテストでは改善されており、口腔顔面痛診断実習セミナーの有用性を確認できた。

今回のセミナーでは、6月5日に行われた「口腔顔面痛ベーシックセミナー」を受けた受講生も多くみられ、臨床診断推論、筋触診、脳神経スクリーニングおよび神経障害性疼痛の実習は、これまでのセミナーよりスムーズに進んだ。昨年度から、セミナー回数は年間3回に増え、回を重ねるごとに受講者、講師、インストラクターの知識、スキルのレベルが上がっているのを実感した。来年3月のエキスパートセミナーではさらに内容のあるセミナーにしたい。



**臨床診断推論実習**

---

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp